

か、上演して見る人はないかナーと思う。

三つ目はシカゴ大学出版部発行のショート・バイブル(1933年版)である。これはグッドスピード教授が、豊富なる学識と、近代感覚によつて現代人に、しかも一般大衆にバイブルを紹介されている点が特色である。私の友人がこれを読んで感激した。感激の精神力で病氣もよくなった。私にすゝめて、日本の勤労大衆必読の書として広くこれを普及させたらどうか、というのである。私もこれを読んで感心した。2千年前に民主主義を説き、自由平等を平易にといた偉大さが、ありありと目の前に浮んできた。原序文に曰く「聖書は現代生活に対して大いに利益と価値を有する」一日も早くこれを大衆に紹介したいと努力している。(筆者社会党最高顧問)

## 公衆衛生看護学講座(医学篇)

国立公衆衛生院看護学部編

厚生省看護課長 金子 光

戦後、保健婦の教育は翻訳物の参考書によつて行われて来ました。もともと公衆衛生に関する考え方は、先進国から輸入されたものでありますから、翻訳物による勉強は止むをえないとしても、それは基礎的知識を得るためのものであつて、日本の公衆衛生をきわめる参考書、特に、保健婦の教育を目的とした良書がなかつたのであります。

今回、国立公衆衛生院の看護学部が編集された「公衆衛生看護学講座医学篇」は同学部において、多年経験され、研究された結果をその直接の担当講師の手によつて注意深く執筆されたものであるので、保健婦の教育に資するところ大であることは申すまでもありません。

年々増加する保健婦学校においてはもちろんのこと、すでに実際活動をしている保健婦諸姉の資質の向上のためにも、また新しい看護婦教育に浸透させる公衆衛生看護の教育の可能性の上からも、広く活用される最もよく準備された指導書であることを確信すると共に、こういう指導書のできたことを心から喜ぶものであります。〒700 円50

書評

## 新春座談会

# 今後の看護教育は—?

出席者(発言順)

聖路加女子専門学校 教授 湯楨ます

同 教授 高橋 シュン

同 教授 前田 あや

同 助教授 吉田 時子

司 会 本誌編集部

### 看護界は次の段階に進んでいる

司会 あけましておめでとうございます。今年もどうぞよろしく。今日は新しい年を迎えて、看護教育の抱負を大いに語つていただきたいと思ひます。最初本のことについて伺いたいのですが、最近、今まででている看護の教科書は、もうそろそろきりかえの時機がきているのではないかというような声も聞きますので…

湯楨 終戦後からいろいろな新しい考え方が一通り行渡つて、今はそういうものを評価して、次の段階に入ろうとしているのではないのでしょうか。

高橋 おつしやるように次の段階だということを感じる例の一つでは看護教本が余り出なくなつたこと、これはむしろ、教える人達が徐々に自分のものを作り始めたということ

にもなるのではないのでしょうか。そういう意味で、今度は進歩的な人々のために役立つようなものが、欲しいわけですね。

湯楨 先日、専任教員の集りがありました。やはりそういう話がありました。何かこう科学的裏づけをもつたもの、特に看護の方面にそういうものが少ないのと、既成のものでは満足できないので、何かしらもつと違つたものを求めているんだけど、どんなものかという例は自分ではいえない。しかし何かある筈だ。例えば、浸透教育といつて社会面や心理学面、それから看護の知識や技術等を全部織り込むといわれても、実際にそれを書かれたものが欲しいと、こういう声がありました。その通りだと思います。

高橋 そうすれば、その場合に本の上に現われたものが見たいという

ならば、一つの假説というか例とい  
うか……

**前田** 教授案だね。

**湯楨** 臨床看護指導の原理と実際  
の下巻にそういうティーチング・プ  
ランが出ていて、割合にいろいろな  
ものに互つて、事例が書いてありま  
す。あの本が出れば、きつとヒント  
が得られるし、そこからまた自分の  
ものを考えて行くことができるわけ  
で、早く書かなければと、責任を感  
じます。例えば今高橋さんが臨床で  
教えている傾向、それから基礎看護  
で吉田さんが教えている傾向は、一  
般にはまだそこまでエクスペリメン  
トができていない所が多いのではない  
でしょうか。そういうと、いいす  
ぎかも知れませんが。

**高橋** でも若い先生たちは次矛に  
そういう傾向に向つていますが、で  
もまだ同じ教案を毎年くりかえして  
考えないで使つてのような人が多  
いのです。

**吉田** 高校を出て、看護学校に入  
つてきた人達の要求が何であるかを  
早く知ることのできるの、やはり  
どちらかといえば、若い先生たちだ  
と思います。だからどうしても先生  
は、満足を与えるためには、自分自  
身が勉強してそれに応えなければな  
らない。

**高橋** ほんとうにそうですね。

**湯楨** わかろうとしないで、マン

ネリズムに陥っている人もありま  
す。患者の要求が変るはずだとい  
うようなことも考えないで、ただ情性  
で行つているという人達もあり、ま  
た非常に考えている人もいます。

**高橋** そういう意味で私は、生徒  
の要求を理解し、生徒と同等の勉強  
に対する意欲を古い時代に教育を受  
けた人も持つて貰いたいと思うわ。  
教師の講習に行つても、そういうこ  
とを自分で求めようと努力する人と  
面倒くさくなるからただ目をつぶつ  
てといった感じの人とありますね。

#### 図書室の利用度は

**前田** そうでしょうね。ところで  
図書室というのが生徒のために本当  
に勉強させましようというところが  
割合に少いんじゃないですか。そし  
て生徒はもうレクチャーで一杯です  
という人もある。もちろんレクチャー  
に追われていますというのもあり  
ます。

**湯楨** どう使わせていいかわから  
ないということもあるでしょう。

**前田** そうなんですよ。結局は…

**湯楨** 先生自身が使い方がわから  
なければ……勉強のしかた、本の読  
みかた、本の選びかた、そこが根本  
問題ではないでしょうか。

**前田** だから本はありますとい  
うのは、問題は単に本棚につまつて  
るだけね。そこに動きは見られな

い。それをどうしてここで使わせて  
いらつしやるのですかと聞くと貸出  
していますという。貸出していると  
いうことは、或る特定の人だけしか  
使わないことになるでしょう。本が  
沢山なければ図書室にきて自分の欲  
しいものを拵げて見て、すめば返し  
次のものを見るということはできな  
いわげじやないかしら。

**湯楨** 一つの科目の調べものた  
めみんなが2、3冊持つて行けば本  
がすぐなくなつてしまつて、他の人  
が勉強できない。図書室で勉強すれ  
ば、1人の人が1冊読んでいる間に  
他の人が別なものを読むことができ  
るわけでしょう。そういう点をもう  
少し私たちが研究し、生徒の勉強の  
仕方を根本的に指導し直したらよい  
のではないのでしょうか。

**前田** そうして生徒に考えさせる  
問題を提供するということが必要で  
はないかしら……

**湯楨** それに教授法についても、  
もう少し効果的な方法を考え、少な  
い学校の授業時間を十分に活用でき  
るように準備がほしいものです。

**前田** だから本を使うか、使わな  
いかということで違つてくるでしょ  
うね。

**高橋** それが一番大きな問題じや  
ないかしら。

**湯楨** 日本に看護婦の本が一体ど  
れだけあるかということ調べて見

たら面白いと思います。とにかくい  
くらもありません。しかも足りない  
のは数だけではなく、質もそうです  
し、そろそろ皆の求めているような  
本がでてこなければいけないはずで  
すね。

**吉田** 疾病の本は割合にあります  
が、看護の本で単独に出されたもの  
は余りありませんね。

**湯楨** 例えばこれだけの本の棚を  
持つてても(註 聖路加女専図書室)  
日本の看護学の本で看護婦の書いた  
部分は10分の1位しかないでしょ  
う。そちらに並んでいる外国の本は  
看護婦の書いたものも実に堂々と、  
他の分野に比して全く遜色のないも  
のが沢山あります。20年前にはアメ  
リカでも看護婦のための本は一段や  
さしいものが多かつたのですが。

**前田** それによく考えて見ると、  
あちらの教授たちは、やはりノート  
のつくり方が上手なのでしょう。か  
教えながらそれがすぐ本の原稿にな  
るように書いてあるらしいですね。

**湯楨** それから本の読み方が上手  
です。要するに私達はそういう訓練  
が足りませんね。私達は基礎的なも  
のすべてが足りないの、種々な困  
難があるのです。例えばアメリカで  
は立派な教案をつくり、立派な本を  
書き、本の読み方が要領を得てい  
るということは、初めの土合からその  
用意が順々に積んできているので…

**高橋** 私達は時間の使い方とか、本を読むということについて教えられたことはなかつたわ。

**吉田** まず本を訳本読もうという気が起るよう、そして効果的に読めるように、また読後その本について考えるようになるには、やはりその指導が必要だと思います。

**湯楨** 私達は向うの学校に行つた時に、大学でまず最初にオリエンテーションがあつたのです。その時こんな子供らしいことをしてと思つたのですが、あとでそれがいかに大切かということがやつとわかつて…

**高橋** そのことは、どうしても一年の真先に教える必要があると思います。皆がもう少し、寸暇を惜しんでも本を読むようになればね……

**吉田** 文学的なものなんかは割合短い時間を利用して読んでいます。

#### 患者の社会的背景も考えて

**高橋** 今年の1年生は、初めはちつとも親しみを持たなかつたし、わからなかつたんですが、1時間の講義をもつとも効果的に勉強するためにはどうしても本を読む必要があると話し、こういうテーマについては、どの本の何ページに書いてあるから次まで読んできて下さい。それをばらばらに書かないで、ノートにちゃんと宿題として書いておきな

いと注意したのです。そうしたら次のレッスンまでに、相当に自分で読んでまとめたものを書いてくるようになりました。そうすればあとで読んだ時にわかるでしょう。

**吉田** 私のクラスでも宿題は必ずしも提出させません。ノートに書かせています。始めのうちは、なかなか自分で調べないで、他人のノートを丸うつしにして来るようなものもありましたが、だんだんそれはなくなり、ちゃんと書いてくるようになりました。

**前田** 今の1年生はそういう点実にはつきりと系統立つてますね。

**高橋** 相当読んでいるし、解らないところも、そのあとすぐ聞きにくるし、なかなかやつているようです。

**前田** 私外来に出て非常に面白いのは、外来日記を毎朝読んでいますが、なかなか立派なノートがあります、ああいうノートはときどき何かの機会に発表するといいいですね。私も今、一生懸命にその生徒の日記をいかに効果的に使うかということを考えています。病院外来の実習中の生徒の日記は、学習指導、また外来での臨床指導には非常に重要な役割を果すと思います。

**高橋** 確かにそうですわ。生徒自身のアクティビティのいかんによつて面白くなってくるし、また自分のものにもなってくるのです。そ

れで私、この頃の生徒を病室で見ますと、今までは疾病のみを勉強してくる傾向があつたんですが、各患者の背景ということも考えてきているようです。それともう一つは経済的面ということも非常に強調してきました。例えばこの人はこういうふうに指導して、それと同時にそれは家でもできるかどうかを考えなければいけないといいます。またある人はこんな病気でこういう治療をしているけれども、本人が本当に喜んでいるか、協力しているかという問題も考えています。それでもまだちよつと足りないと思うことは、患者のエモショナルニーズ(感情的欲求)ということです。それは非常に難しいことですが、だんだんわかつてきているらしいです。

**吉田** それはやはり数多くティーチング・プランなどをたててみて、その患者の必要がわかつてくるのですね。つまり経験ですね。

**前田** それにはやはり先輩の方たちが実際に見せることが大切です。そして患者はこういう時は、どんな考え方をしているかをよく示すと同時に、他方本を読ませて考える機会を与えなければならないでしょう。

**高橋** 2・3年生は確かに患者の経済的ということや、患者の背景ということを考えてやっていると見えますが、どうも私の感じる所

では、一般にお医者さん方は、患者の数とか疾病そのものだけに重点をおいていらつしやるらしいですが、その点ここでは、総合的に考えて下さるので有難いと思うんですよ。例えば受持の先生に看護上のことをこうこうしているのですがと申し上げると、それについて意見やら賛成していただけます。それからカンファレンスする時なども、受持の先生が参加して下さい、そこはとても大切な看護ですとおつしやいます。また我々の方針を理解して看護をするという態度は立派ですとおつしやるんですよ。そしてお医者さん自身も看護というものが何であるか、だんだんわかつてくるような気がしますとおつしやつた時は本当に有難いと思ひましたわ。

**前田** それから常に患者記録(チャート)を見るということが大切ですね。忙しくてなかなか暇がないらしいですが。

**吉田** 殊に外来では、診療が始まりだすと余程心に余裕がないと見るということではできませんから。

**前田** それでしまいいには、すべてのことが機械的になることもあるでしょう。

**高橋** 私もそれを云つてはいるんですが、生徒についても無理なんですよ。とかく今までは雑用することに馴れてきているでしょう。その方が

安易だから。

**吉田** それもあるかも知れませんが、卒業生が立ち働いていらつしやるのに、じつとチャートを見ていたりすることが、何か悪いような気がするんです——といっているのを私聞いたことがあります。

**高橋** それで私は、各セクションの婦長さんに生徒はこういう気持ちを持つているから、もし本当にあなた方が生徒を見て下さるといふならば雑用よりも受持の患者を中心に勉強させるというような具体的なものをもつて貰いたいと云つてます。ちよつと暇ができた時に、あなた、なかなか暇がないけれど一寸見ましようかと一言いつてくれると、生徒は非常に喜びますから。それに私からいうよりも各部の婦長からいわれるのは、とても嬉しいことなのよ。そして婦長に対する信頼というものも生徒は持つてくると思います。

**前田** それで毎月一回ずつ看護婦さんの会合をして話し合う機会をもつようにしております。

**吉田** 卒業生も生徒に何かしたいという気持ちがありますね。今度外来の卒業生が生徒の書いた日誌をよむということになりましたから、何かしら自分達も直接教育に干与しているという責任感と満足感をもつていらつしやるようです。それは逆から見れば、教育的になつてい

のです。それからここへきて感じましたことは、薬局に自由に出入りして、とてもよく利用していることです。薬剤士に非常に協力的で親切な方がいらつしやるのです。それで、薬を薬局に取りに行つた時とか寮への帰途にちよつと寄つて、わからない点をきくというふうなんです。生徒は注射の箱に入つている効能書だけでは満足しなくなりました。

#### 奉仕から労働へ

**司会** それでは少し話題をかえまして、看護婦の仕事ということについて先生方のお考えを……

**湯楨** 看護婦の仕事は奉仕の仕事であるということについて、今看護学校の生徒が疑問を持つてきていると思います。特に看護婦だけが、そういう犠牲的奉仕の精神、報酬を求めるとを不当とされる理由を知りたいと考えてきているようです。

**前田** もつともです。

**湯楨** 先日労働省の方々にお目にかかつた時に、看護婦の職業を高等学校をでて専門学校なり、大学程度の教育をうけた人達ばかりで占めると、中学校卒業生の行く道がなくなると、専門学校程度以上の看護婦だけになると、何か日本の経済状態からして、どうしても理想的にいかないんじゃないかということをお知らせしました。それで私は看護婦の仕事が

昔と変つてきていることを説明しました。そのかたが昔の雑用を主とした仕事を看護婦の仕事だと思つていらつしやると思つれば、それは間違いで新しい看護婦は科学の進歩につれて、複雑化してくる医療のよき協力者となり、健康を保ち向上させるために、よき指導者となるのであつて、看護婦が今までしていた仕事の何割かは、医師の補助的なことですから、そのような仕事は中学校をでて簡単な勉強をした人達に移り中学校卒業生の道を阻むものではなく、途が開けていない所か、必要な人々です。仕事の内容をよく説明して皆さんにわかつて貰わなければならないということをお話したんです。

**前田** 一つは私達看護婦の態度も考えなければなりませんね。

**湯楨** だから本当に物を考える看護婦を作らなければ、これは早急にはいかないことですが。

**前田** はいと云つて、何から何までこうしなさいといわれて行くのがいい看護婦だと思つているような考え方はね。

**湯楨** また自分で考えるということまでは行つていない。それが考えるだけでなく、しゃべるだけでなく、行う人にならなくては。

**高橋** いつも思うんですが、ただ教壇に立つてしゃべるばかりが教師じゃない。教師とはすなわちいい看

護婦でなければならぬんだということをお説私に力説したんです。

**吉田** まずオ一に本当に看護が好きでなくてはいけないということが大切な条件だということ……。本当に自分が好きで看護婦になつた喜びを感じていなければ、いい看護婦はできませんもの。

**吉田** それはそうですね。

**湯楨** ある人が本当にいつになつたらこの白いユニホームが脱げるようになるのか、と言つたことがありました。その時ほど失望したことはありません。

**前田** だけどそれはわかるのよ。つまりユニホームを着ることに何かひげ目を感じるといふことは困つたことだと思いますが、ところがこの頃の生徒はそんなことを考える人はいませんね。

**吉田** 結局認識されたんです。看護ということが……

**高橋** そうねえ……

#### 医学と共通した学の樹立を

**吉田** でも看護に対する社会的認識というものは、まだ足りないようですね。例えば、経済学とか心理学とか教育学とはいいますが、看護はいまのところでは……

**湯楨** それは吉田さん、看護学の定理をまず考えて見れば、学問的裏づけがあるかどうかということ。橋

本先生が常に看護法はあるが学というものはないから探求して行かなければあなたたちは幾ら勉強しても駄目だということを教えて下さつたでしょう。私は橋本先生いいことをおつしやつて下さつたといつも思い出しています。学とは何かということ随分考えていたけれども、戦争がすんでアメリカに行つて見て、実際にナースの部門に学というものがある。リサーチというものがあるということがはつきりわかつたと思うのです。それまでは看護法からどうして学を見出そうかと苦心していたのです。然し本当にこの戦争を機会にずつと飛躍してきたといえますね。いつか河辺先生と誰かが話をしていた時に、医学の勉強ではということその人がいつたら、河辺先生が医者者の学問とか看護婦の学問とかいうふうに考えていない。共通した人間の健康に関する学問だという意味のことをおつしやつた事があります。

**吉田** そうだと思うわ。看護がだんだん看護学としてうちたてられようとしてきているし、また、少数の人ですが、看護婦以外の人、それを認めてきたことは確かですね。

**湯楨** 吉田さん、看護の実習及び基礎看護というものが、いかに看護学の重要な根本をなすかということばかりきつたことなのに、それらを単なる方法として考えている人が

沢山ありましよう。それに対してあなたが科学的な態度で立向つているということ、それは絶えず変化し発展していると考えながら、本当に一生懸命にそれらのものを何らかの形で現わそうとしているということは一番大事なことだと思います。そういう傾向を持つた教本に代るものが現われれば、みんなが要望していたものがこれだということがわかるでしょう。いろんな意味で今あなたの執筆している本、早く出るとよいと思います。3、4年前にすでにそういうものが是非とも必要だと思つたのですが、やはり時機が熟さないからね……

**高橋** ところで吉田さん、生徒の考えが変つてきていることは確かです。病室に出た時、それが一番わかるわ。

**吉田** 私本当に高橋さんから随分いろんなことを承つた。それは厩大です。ヒントやまた考え方をね。感謝しています。

**前田** よい看護婦を作ろうということは、皆がいい看護とは何ぞやということがはつきりわからなくては本当にいい看護婦はできないですね

**湯楨** いい看護をしないで、教室でばかり教えても、それは頭でつちになつて、私はその人は本当に苦しむばかりだと思います。

### 数世代かかる水準の向上

**吉田** 実際そうですよ。例えば患者を楽にするという一つのことにしても。

**前田** 実際患者をみたとき、それを楽にして上げて、それが本当に効果的で患者が実際に楽になれば、生徒は納得いくと思います。

**吉田** 実際どこか足りない点もあるのよ。こういうことがあつたの。患者を楽にするには枕を使う方法とか椅子とか布団を使つても二つのベッドがあればなおいいし、いろいろですね。私のクラスで手術後の患者さんを初めて起すのにバツクレストを使いたいというわけなんです。病室へ行つている時にちようどマットレスの上に敷く薄くて悪い布団を1枚借りて来て患者さんのとても安楽なバツクレストを作つたんです。とてもよくできたものですから、私本当によくできたとほめたんですが、次にほかの物品が必要になつて倉庫をあげたんです。そうしたら何と立派な斜面合が二つもあつたんです。だからやはりそういう意味で基礎看護を教える人ができるだけいいものを揃えたいという気持は私わかつて思うの。

**前田** それは本当にそうだと思うのよ。だけど私が感じているのは、看護が何であるかを身をもつて体験

したことの無い人が、基礎看護を教えていることね。

**湯楨** ものが揃つていなくても看護は何でもできる筈でしょう。

**前田** そうですよ。患者を看護するというのが、いかなるものであるかということを実際に知つている人ならば、なにがなくても、これだけのことはしてあげなければならないといえ、まずその患者にしてあげられると思います。だから看護の全体の水準をあげるということが必要です。本当に看護というもの、もつともつとよくなるといつと、つくづく思います。

**湯楨** しかしそれは、20年か30年の仕事だから一代や二代では難かしいでしょう。せめてそんなに長くかからないように皆で一生懸命にやりましょう。私が死んで吉田さんたちが死んで、その次ぐらいつとよくなるでしょう。だつて見て御覧なさい。アメリカの発達が非常に早いのは、あそこは伝統がないから、それに比べるとイギリスの発達は遅々たるものです。ナイティンゲルがでて世界を風靡したというけれどその本国の進み方はスローですね。日本も伝統をしよつていますから。

**前田** 私達も保守的ね。でも今年こそ本当に一生懸命にならなくては  
**司会** ではこの辺で、先生方の御活躍を期待致しております。